伝え続け 未来の命救う

東日本大震災 11年

東日本大震災の発生から丸11年を迎えるのを前に、被災者家族の歩んできた道のりをともに振り返るフォーラム「東日本大震災から学ぶべきもの～10年間の歩み・大切な命との向き合い方～」が20日、石巻市で開かれた。伝承活動などに取り組む遺族らが10年あまりの月日を経て感じる心の変化と、安全な社会の実現へ向けた希望を語り合った。【白武信幸】

遺族ら、安全な社会願い

石巻でフォーラム

フォーラムは、七十七銀行女川支店で長男健太さん（当時25歳）を亡くした田村孝行さん（61）が被災者家族らに呼びかけて組織した「3・11ネットワーク」が企画。石巻市門脇地区の伝承交流施設「MEET門脇」を会場に、オンライン中継を含め約120人が宮を傾けた。

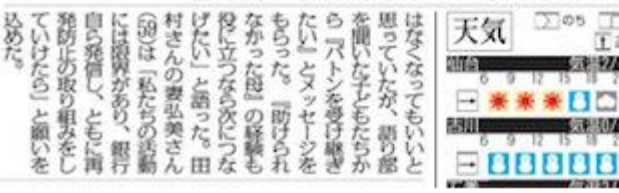
岡市立大川小で当時6年生だった次女真衣さん（当時12歳）を亡くした「大川伝承の会」共同代表の鈴木典行さん（57）は被災会前で語り部を続ける理由を「10年たっても思いは変わらないし、時は止まったままだが、あの場所で活動できるのは真衣がそばにいると思うから。伝え続けることで未来の命を救いたい」と話した。

名取市の閖上中1年生だった長男公太さん（当時13歳）を亡くし、復興祈念資料館を運営する「時上の記憶」の代表を務める丹野祐子さん（53）は「津波が来ないと信じ、逃げなかった愚かな母親の一人」と後悔を語った。6年生だった次女真衣さん（当時12歳）を亡くした「自分だけ生き残った」苦しみを抱きながらも、遺族同士で呼びかけたことで閖上の新しい学校の一角に慰霊碑が建てられ「親が死んでも、碑が残ることで、かつて生きたくても生きられなかった（閖上中で犠牲になった）14人の生きた証が残せたことは幸せ」と言葉を紡いだ。

田村さんは、企業管理下で息子の命が守られなかった悔しさを抱えつつ、それまで災害や事故をひとごとに感じていた己を省みて、全国に慰霊の行脚に出向き、多くの遺族と出会った縁から遺族同士が連携するための団体「健太いのちの教室」を設立した。「自分と同じように、命を第一に考える社会の実現を願い活動する遺族とつながり、勇気をもらい、生きる源になった」と力を込めた。

後半のパネルディスカッションでは、健太さんと同じ職場で津波にのまれ、今も行方が分からない妻祐子さん（当時41歳）を捜す高松康雄さん（65）がマイクを握った。高松さんは遺水十の網格を取り自ら水中を捜索しており「海底に泥がたまり難しくなってきたが、やめてしまったら見つかる可能性はゼロになる。夢ごとで、この海のどこかにいると思えて、近くに行けた気がする。体力の続く限り続けたい」と語った。

語り部を続ける原動力について、丹野さんは「死んだら私の存在はなくなってもいいと思っていたが、語り部を聞いた子どもたちから『バトンを受け継ぎたい』とメッセージをもらった。『助けられなかった母』の経験も役に立つなら次につなげたい」と語った。田村さんの妻弘美さん（59）は「私たちの活動には限界があり、銀行自ら発信し、ともに再発防止の取り組みをしていけたら」と願いを込めた。



オンラインの画面越しで被災後の歩みを語り合う（左から）鈴木典行さん、田村孝行さんと妻弘美さん、丹野祐子さん＝石巻市で

天気
のち　一時・時々　5㍉以上
正午の風向き　5㍉未満
仙台　気温 17/2℃　降水確率 30%
6 9 12 15 18 21 24時　あすの予報
3/-2℃　30%
石巻　気温 17/-3℃　降水確率 30%
6 9 12 15 18 21 24時　あすの予報
1/-4℃　30%
インフルエンザ　3　警戒
洗濯　1　乾かない
乾燥肌　3　警戒
4　厳重警戒
1　乾かない
3　警戒